

令和7年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1	施設名	(所管課)
	富山県呉羽青少年自然の家	生涯学習・文化財課
2	施設所在地	
	富山市西金屋字長尾8194	
3	施設設置年度	
	昭和50	年度
4	設置目的	
	自然環境の中で集団生活を通じて、心身ともに健全な青少年の育成を図る。	
5	施設概要	
	敷地面積：35,024㎡ 主な施設 ・本館：鉄筋コンクリート造り2F 2,983.14㎡ 宿泊定員200名 ・野外設備 グラウンド：約2,500㎡ キャンプ場：約3,000㎡ 林間プレイランド：約3,000㎡ 三楽池約1,000㎡	
6	指定管理者	
	株式会社 東洋サービス北陸	
7	指定期間	
	3	年
	令和6年4月1日	～ 令和9年3月31日
8	利用者数及び利用（使用）料金収入の状況	
	(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加	
	R3	R4
	11,123	14,002
	R5	R6
	15,669	15,048
	R7	
	17,340	
	(2) 利用（使用）料金収入（千円）	
	R3	R4
	2,710	5,396
	R5	R6
	7,809	7,136
	R7	
	9,145	
	(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）	
	R3	R4
	10,477	10,477
	R5	R6
	10,477	10,477
	R7	
	10,477	

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

・令和7年度は、総利用者数が令和6年度に比べ、2,292名増加した(前年比15.2%アップ)。団体区分で見た場合、「小学校」、「官公庁・企業」以外の区分で利用者数が増加したが、特に令和7年度は、前年度から主催事業を充実させたことや、県内外の大学生の合宿利用が増えたことに伴う宿泊利用者数の増加(R6:9,069名→R7:11,035名)が顕著であった。

・令和8年度については、主催事業をさらに増やし、併せて高校や大学が利用しやすい環境を整備するなどして、今後も継続して利用していただけるよう働きかけていきたい。

(2) サービス向上に向けた取組み

・令和7年度もすべての主催事業の参加申し込みを、フォーム(Googleフォームを使用)方式にすることで、参加者の申込時の煩雑さを解消し、

・主催事業の事後アンケートや事前健康調査も、フォームで受け付けるようにしたことで、事業参加者の利便性を向上させたり、通信費や用紙代を削減したりすることができた。

(3) 利用促進(収入増)に向けた取組み

・呉羽青少年自然の家公式FacebookやInstagram、そしてYouTubeチャンネルの開設など、SNSの積極的な活用を継続し、主催事業の告知をはじめ、活動プログラムや所周辺の様子などを発信し続けた。その結果、フォロワー数も増加し続けており、主催事業参加者は、リピーターが増加傾向にあり、効果が顕著に表れている。

・令和8年度も引き続きこの体制を継続しながら更新回数をより増やす努力を継続する。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	利用団体に対してのアンケート実施
回答者数	宿泊利用団体数 484団体
結果	活動評価(4.8) 施設評価(4.5) 食事評価(4.5) 各項目5段階評価平均値
結果を踏まえた改善事項	・竹製遊具の安全面に少し不安を感じたという意見があり、池ジャングルや竹ジャングルなどの整備を徹底した。 ・オリエンテーリングやウォークラリーの際に、倒木でつまずきそうになったという意見があり、利用するルートの倒木処理や除草作業の頻度を高めたりすることで、安全管理を徹底した。

② その他利用者の声を反映させる取組み

・所員が利用者目線に立って、各備品の状態を確認し、違和感や不快感を持たれないよう、事前のチェックや修繕を徹底して行う。

③ 主な苦情と対応

・洋室の電灯カバー落下における苦情については、金具と結束バンドを使ってベッドの一部に固定して、落下防止の対策を行った。

(5) 個人情報保護の取組み

・利用申し込み書や名簿については、利用終了後にファイリングを行って所定の書架に収めている。

・撮影に対する許可については、利用申込時に確認を取り、公開する場合は利用者の許可をもらっている。

(6) 関係団体との連携

- ・共催事業として立山荘と連携した「呉羽と立山いいとこどり」や悠久の森実行委員会と連携した「悠久の森であそぼう」を実施している。
- ・毎年9月にNPO法人と連携した行事も継続している。

(7) 施設・設備の維持管理

- ・施設や設備は開所して50年以上経っているので、経年劣化は否めない状態となっているが、清掃や修繕をしっかりと行い、利用者が気持ちよく使えるようにしている。
- ・備品の中には部品がなく修繕できない物(特に調理器具)もあるので、今後も優先順位をつけて計画的に更新していく必要がある。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

- ・年に2回の防火訓練の実施により、全職員が非常時においてもスムーズに対応できるよう行動レベルの向上を図っている。
- ・消防署員の指導による救命救急講習も年1回実施している。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有／無	回数(有の場合)
有	12回
有	6回
無	—
無	—

【トラブルの具体的内容と対応】

特になし

11 今後の課題等（収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載）

- ・長年使用している竹製の遊具(竹ジャングル、ターザンロープ等)については、毎年施設管理員を中心に竹を更新して維持をしているが、もともと専門業者でない職員が作成したものであり、使用に当たっては安全性を慎重に考慮していかなければならない。今後プログラムを存続させるのか、別の新たなものを構築していくのかを検討すべきと考えている。
- ・全体としての利用者数は増加したが、小学校や官公庁・企業の利用団体が減っているため、広報活動の強化や活動プログラムの充実に努め、一層の利用者増を図ってきたい。